

つれづれ

平成29年9月5日(火)

プロの仕事



毎日の通勤で、自宅と最寄り駅との往復に南海バスを利用しています。今日は、ある乗務員さんのことについて、皆さんに伝えようと思います。その乗務員さんのお名前は、北野勇樹さんといいます。普段は、乗務員さんのお名前を気にすることはないのですが、初めて北野さんの運転するバスに乗ったとき、あまりにも心地よかったものだから、下車するときにバス内のネームプレートでお名前を確認したのでした。今でも、北野さんが運転するバスに乗ると、とても得をしたとを感じるのです。

それでは何が心地よいのでしょうか。まず第一に、乗客にとって優しい運転であることです。発進や停車、カーブを曲がる時など、乗っている人に不安感を感じさせないハンドリングが、乗客を安全に目的地まで運ぶということの大切さを再認識させてくれます。アナウンスが的確であるとともに分かりやすいことです。運行中の危険な予告やその他の車内アナウンスが、丁寧かつ言語明瞭ですと耳に入ってきています。最後に乗客とのコミュニケーション。下車するとき、定期券を見せながら「ありがとうございます」と言っていると、北野さんからも気持ちのよい挨拶が返ってくるのです。その挨拶は決して義務的なものではなく、一人一人の乗客を大切に行っている心が伝わってくるのです。以上のことは、バス乗務員としては当たり前のことなのかもしれません。けれども、北野さんの仕事ぶりに引きつけられるのは、仕事に心がこもっているところから確かです。近い将来、AIの発展で自動運転技術が進歩すれば、バス乗務員という仕事が無くなる可能性は0ではありません。しかし、AIには乗客を目的地まで安全に運ぶことはできても、豊かなコミュニケーションをとることはできないと私は考えています。北野さんのバスに乗るたび、プロとしての仕事ぶりに触れ、自分はまだまだだなあと感じるのです。さて、今日の帰り道は北野さんのバスに乗れるでしょうか。

※文中に個人名が出てきますが、ご本人様の了承を得ております。

<保護者の皆様へ>
学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。
【大阪市教育委員会 天下茶屋中学校】で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>